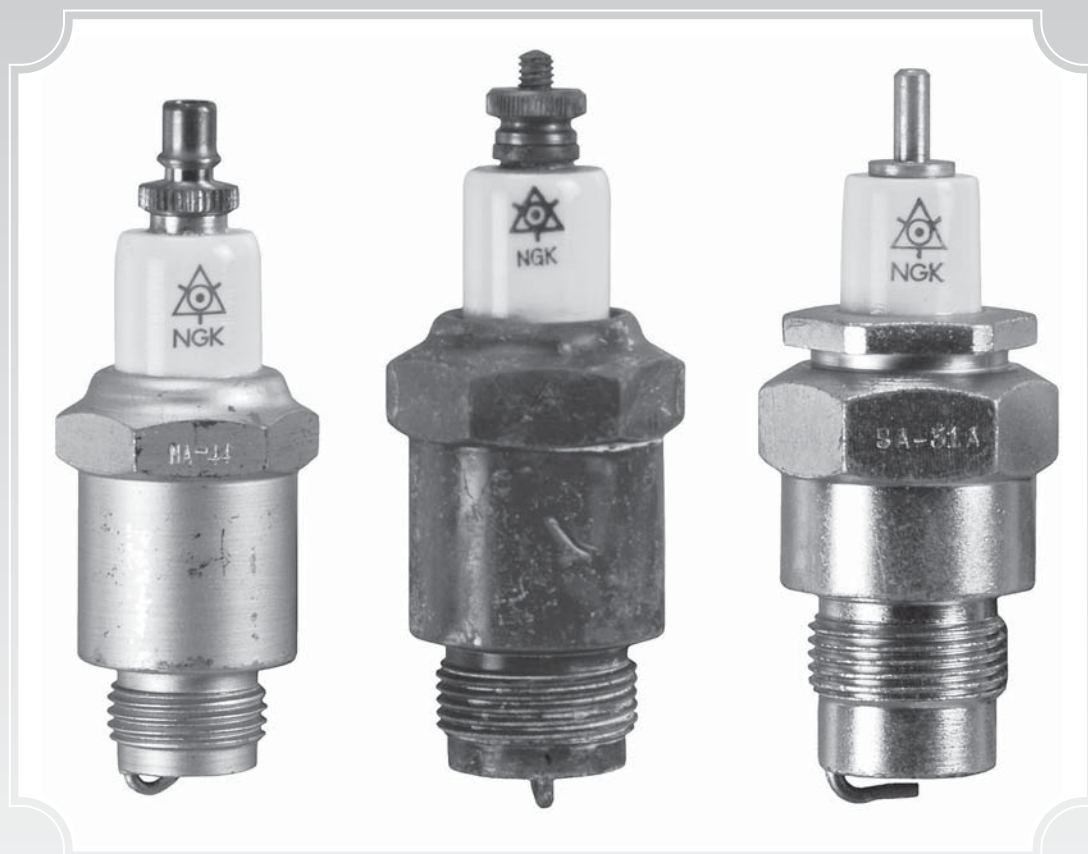


「モノづくりは、人づくり」



発売当初のスパークプラグ（1934年）

提供：日本特殊陶業(株) <写真説明文>表紙裏

◆内容◆

- 1 巻頭言 小島プレス工業(株)取締役社長 小島洋一郎 氏
- 2 我が社のQC活動～愛三工業(株)～
- 3 協会だより（職場改善事例発表大会、品質コラム）

『時代に合ったモノづくりへ進化を続ける』

小島プレス工業株式会社
取締役社長 小島洋一郎氏



およそ4年半前のリーマンショックを発端に起こった経済危機をはじめ、2年前の東日本大震災、タイの大洪水などの自然災害、円高や高い法人税、FTAへの対応など、六重苦とも七重苦とも言われる経済環境は、日本経済、我々自動車産業界にとりまして、大きなダメージを与えました。

しかし、この危機的状況を乗り越えられたのは、会社、そしてそこで働く『人』が適応できたからだと思っております。

小島プレスは今年5月で創立75周年を迎えます。これもひとえに、先人先輩方の努力と私どもを支えていただいた得意先や協力会社、そして地域の皆様のご理解とご協力の賜物であります。そして、この75年の間、品質第一を基本として、地道に活動に取り組んできました。

その基本精神として社員の心に刻まれていることは、創業者が残した「我社の本領は最大の会社たらしめるにあらずして常に良品を製造する会社で有る事」という言葉です。これは、「当社は大きな規模でなくて良い。常に良い物を造り続ける」という意味が込められています。まさに、現在の私達が守っていかなければならない考え方だと感じています。今の時代、お客様は最も良い物を最も安く買うということを必要としています。現在の環境の中で、良品廉価のモノづくりを実践できる企業だけが生き残ります。私達も世界一安く造るための活動をしています。品質レベルは絶対に下げてはいけません。だからこそ、継続的な人づくりが必要だと考えております。

このような考え方のもとで、当社は『人中心の経営』を基本理念に掲げ、人づくりに力を注いできました。日本には他国に比べて豊富な資源がありません。『知恵と工夫』が唯一の財産だと考えております。私の祖父にあたる創業者は、『物を大切に作る、使い切る』を実践してきました。たとえ釘一本、板切れ一枚、紙一枚でも重要な資源です。当社が受注した自動車部品第一号のワッシャーも、ボデー部品を打ち抜いた後の鋼板端材を活用して生産していました。

その後も歩留まりの追求や遊休資材の活用に始まり、社員食堂での前日予約徹底による残食ゼロ、古紙を材料にトイレットペーパーを生産する機械の開発など、自分達ができることは自分達で作り上げました。『物を大切に作る、古い物を生かす』という創業者の教えが、人づくりのあらゆる活動を通して社員に浸透し、形を変えて今もなお受け継がれています。

今後は『産業のさらなるグローバル化＝国内の空洞化』が予想されます。そのような中で、私達は創業者の教えを大切にして、社員一人ひとりが知恵を出し合い、世界一の良品廉価を目指したモノづくり、品質管理のやり方へ進化させてまいります。

【表紙写真について】

スパークプラグの国産化は、後に日本特殊陶業株式会社の初代社長に就任する江副孫右衛門が、米国視察をきっかけに当社創業前の1921年、スパークプラグの開発に着手したことに始まります。

1926年には、苦勞の末ついに当時日本で最も権威があった陸軍飛行学校から自動車用点火プラグとしての認定を受けました。しかしながら、全国一斉発売を目前にひかえ、エンジンテストで若干の不良品が発見されました。江副氏は、直ちに原因究明を指示するとともに、「均一性に欠ける商品を出すわけにはいかない」と、品質を最優先して、市場に用意されたスパークプラグを全て回収し、発売延期を決断しました。その後、さらなる研究を重ね、1930年によやく国産初となるスパークプラグの発売に至ったという歴史があります。1936年の当社設立以降、この品質重視のDNAは歴代社長に引き継がれ、NGKブランドのスパークプラグは、いまや国内外ほとんどの自動車、オートバイ、船外機、汎用エンジンメーカーで採用され、世界トップクラスのシェアを誇っています。

1.会社概要

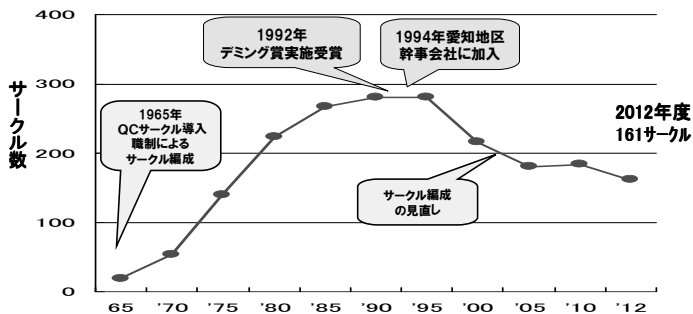
愛三工業(株)は、1938年(昭和13年)軍需品の製造を目的に愛知県と三重県の織機メーカー3社により名古屋に設立された。

1945年民需転換をはかり自動車用キャブレタなどの生産に着手。燃料供給系専門メーカーとして発展し、キャブレタからEFI製品へと主力製品を転換している。

国内6社、海外19社とグローバル展開をしているが、本稿では、国内のQCサークル活動についてご紹介する。

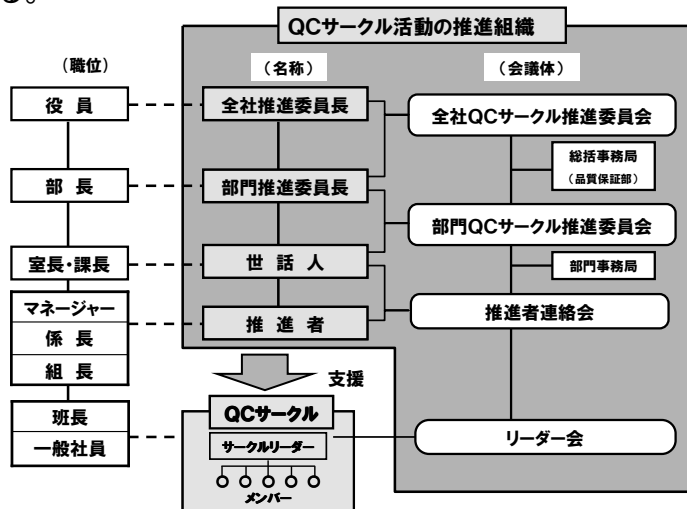
2.QCサークル活動

弊社のQCサークル活動は、経営理念の「人を大切にする明るい職場を築いて」を受けて、『活力ある人材を育成していく』をねらいとしている。



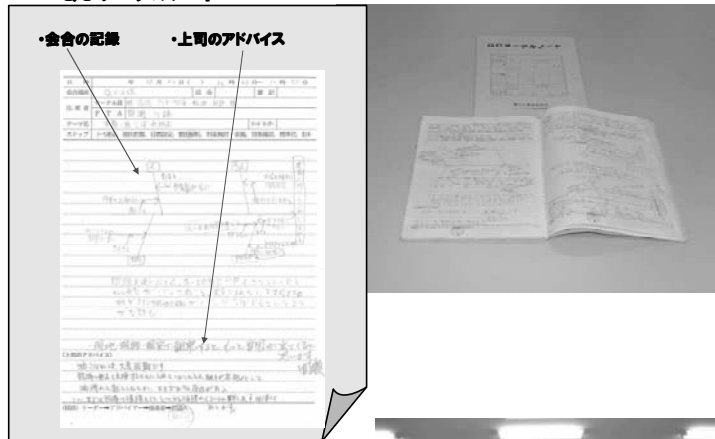
QCサークル登録数を見ると、1995年をピークに最近では160~180サークルが活動している。

弊社のQCサークル活動の推進組織は図のようになり、現場の班長以下でサークルを結成している。



普段のサークル活動にはQCサークルノートを使って活動しており、毎年社内発表会を開催している。

QCサークルノート



社内発表会

- QCサークル全社大会
 - ・1回/年(6月)開催
 - ・社内サークル : 5件
 - ・協力会社代表 : 1件
 - (・海外子会社 : 1件)
- QCサークル推進事例発表会(11~12月)



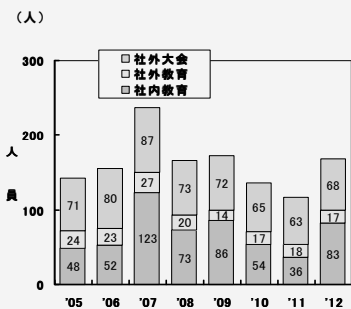
教育も社内でも実施するとともに QCサークル東海支部愛知地区の研修会や中部品質管理協会などの社外教育にも派遣している。

社外への派遣

主催: QCサークル本部、日本科学技術連盟、東海支部、愛知地区、中部品質管理協会

- 研修会
 - 経営者、管理者、推進者、リーダー、メンバー
- QCサークル大会、講演会
 - 体験談発表、聴講

教育・大会の参加者推移



3.活動成果と今後の進め方

活動成果としては、受賞数は少ないが「石川馨賞(FQC賞)」の受賞サークルが'79、'99、'05年と出ており、'12年も久々に弊社豊田工場のMIM(エムアイエム)サークルが受賞の栄誉に輝いた。

とは言え、このように活発に活動しているサークルもあれば、なかなか会合さえ開けないサークルもあるのが実態である。全体的な底上げが現在の課題である。(文責:山田)

7月4日 中部品質大会 職場改善事例発表大会開催!

2013年7月4日に、例年どおり大府市勤労文化会館で開催予定をしています。

内容は①QCサークル、推進者・監督者事例24件の発表

②記念講演：平井マネジメント研究所 所長 平井 勝利氏

元トヨタ自動車(株)、日本科学技術連盟・嘱託(本部幹事)

テーマ「よいモノづくりはよい人づくりから

～集団力・自分達の城は自分達で守れ～

優秀事例には例年通り、西堀賞の授与をいたします。業務事例の最新アプローチの数々。ぜひ、ご参加・聴講下さい。

5月31日 名古屋商工会議所で好川会長・古谷企画委員長が講演します!

2013年5月31日 14:00～15:30 名古屋商工会議所5F会議室ABC 商工会会員限定「無料」

「トヨタのモノづくりの源流～トヨタ生産方式の目指すもの～」

furuyaの品質SAIKOU

ヨーロッパに伝わる寓話を、「真実の瞬間」(ヤン・カールソン著、ダイヤモンド社1990年)という本から少し長くなるが引用する。

“石切場にやってきた男が、石工に何をしているのか、とたずねた。一人の石工は不機嫌な表情で、「このいまいましい石を切っているところさ」とぼやいた。別の石工は満足げな表情で、「大聖堂を建てる仕事をしているんだよ」と誇らしげに答えた。完成した暁の大聖堂の全容を思い描くことができてもその建設工事の一翼を担っている石工は、ただ目前の花崗岩をみつめてうんざりしている石工よりはるかに満足しているし生産的だ。真のビジネスリーダーとは大聖堂を設計し人々にその完成予想図を示して建設の意欲を鼓舞する人間のことである。”

同じ石を切り出すという仕事だが、大聖堂を思い描いて石を切り出している石工は、仕事に対する誇り、やりがいを持って日々の作業に取り組んでいることだろう。自分の仕事が多くの人の役に立っている、すばらしい価値を提供している、という思いは「どうしたら寸法のばらつきを小さくしてもっと正確に切り出すことができるか?」「皆で協力すれば、もっと効率よく石を切り出すことができるのではないか?」などの意識を呼び起こす。

仕事の意義・目的を明確にして、共有することがいかに重要なことか、再認識しておきたい。このことが、一人ひとりの品質意識を向上させる。風土づくりの第一歩であり、リーダーの重要な役割なのである。

【編集後記】 例年になく寒かった冬と、例年になく早い桜前線一厳しければ厳しいほど、花はよく育ち、よく開くという自然の摂理に大いなる学びを得た春となりました。

アベノミクスで少し回復傾向の経済・国際情勢ですが、開花の一助となるべく頑張ります。

(発行元)

中部品質管理協会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル11階

TEL (052) 581-9841 FAX (052) 565-1205

<http://www.cjqca.com>